

一関市学校施設長寿命化計画

(一関市公共施設等総合管理計画 個別施設計画)

【第1期計画 令和3年度～令和8年度】

令和3年3月

一関市教育委員会

一関市学校施設長寿命化計画（個別施設計画）

目次

第1章 はじめに

- 1 学校施設の長寿命化計画の背景・目的等・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
 - (1) 背景と目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
 - (2) 計画期間・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
 - (3) 対象施設・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- 2 学校施設の目指すべき姿・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

第2章 学校施設の実態

- 1 学校施設の運営状況・活用状況等の実態・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
 - (1) 人口の現状と将来の見通し・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
 - (2) 財政状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
 - (3) 学校施設の現状・課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
- 2 学校施設の劣化状況の調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
 - (1) 劣化状況調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
 - (2) 従来型の維持・更新コスト試算・・・・・・・・・・・・・・・・ 16

第3章 学校施設の基本的な方針等

- 1 学校施設等の規模・配置計画等の方針・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
- 2 改修等の基本的な方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
- 3 改修等の整備水準・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
- 4 維持管理の項目・手法等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20

第4章 学校施設長寿命化計画について

- 1 学校施設長寿命化計画について・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
- 2 長寿命化のコスト見通し、長寿命化の効果・・・・・・・・ 24

第5章 学校施設長寿命化計画の継続的運用方針

- 1 情報基盤の整備と活用・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25
- 2 推進体制の整備・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25
- 3 フォローアップ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25

第1章 はじめに

1 学校施設の長寿命化計画の背景・目的等

(1) 背景と目的

市町村合併により8市町村が一つとなった一関市は、多くの公共施設を保有しています。平成17年9月当時（平成23年に合併した藤沢町を含む）において、小学校が51校、中学校が20校で合計71校の市立小中学校がありました。児童生徒数の減少に伴い統廃合を行い、平成30年4月時までに小学校が28校、中学校が16校で合計44校となり現在に至っています。また、現在予定している令和4年度以降の学校統合により、令和6年4月までに、小学校は22校、中学校は14校で合計36校となる見通しです。

「一関市学校施設長寿命化計画」は、市立小中学校の現状と課題を踏まえ、今後の学校施設の適正管理に向けた基本的な考え方や取組みの方向についてまとめたものです。本計画をもとに、教育環境の質的向上を考慮しながら、改築・改修等の優先順位など具体的な対応について検討を進めます。

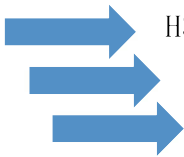
なお、本計画は一関市公共施設等総合管理計画（平成29年3月策定）に基づく学校施設の個別施設計画として位置付け、適正な配置や施設の長寿命化など、将来を見据えた学校施設の在り方を検討するとともに、財政負担の平準化を図りながらコストと便益の最適化の取組みを進めます。

(2) 計画期間

本計画の計画期間は、一関市公共施設等総合管理計画の中期計画との整合を図るため、令和3(2021)年度から令和8(2026)年度を第1期計画とします。

なお、一関市公共施設等総合管理計画の長期計画(平成29(2017)年度から令和28(2046)年度まで)及び中期計画(平成30(2018)年度から令和8(2026)年度、令和9(2027)年度から令和18(2036)年度、令和19(2037)年度から令和28(2046)年度)は、中長期的な取組みとなるため、今後、国の制度変更や社会環境の変化なども予想されることから、必要に応じて見直しを行うこととしているため、本計画においても必要に応じて見直しを行います。

表 一関市公共施設等総合管理計画の計画期間と本計画の期間(イメージ)

平成29(2017)年度～令和28(2046)年度		
一関市公共施設等総合管理計画【長期計画】		
【中期計画(第1期)】	【中期計画(第2期)】	【中期計画(第3期)】
平成30(2018)～令和8(2026)年度	令和9(2027)～令和18(2036)年度	令和19(2037)～令和28(2046)年度
 H30～R2 短期計画 R1～R3 R2～R4	※向こう3か年をローリングにより見直し	

令和3(2021)年度～令和28(2046)年度		
一関市学校施設長寿命化計画(個別施設計画)		
第1期計画	第2期計画	第3期計画
令和3(2021)年度～令和8(2026)年度	令和9(2027)年度～令和18(2036)年度	令和19(2037)年度～令和28(2046)年度

(3) 対象施設

本計画の対象施設は、市立小中学校のうち、令和3年3月時点において統合を予定している花泉地域の6小学校、室根地域の2小学校及び大東地域の大原中学校、興田中学校を除く、小学校20校、中学校14校を対象とします。

なお、統合時に新築される（新生）花泉小学校及び室根小学校は、次期計画以降に対象施設とします。

表：本計画における対象学校

学校施設	学校名	学校施設	学校名
小学校 (20校)	一関小学校	中学校 (14校)	一関中学校
	山目小学校		磐井中学校
	赤荻小学校		一関東中学校
	中里小学校		桜町中学校
	滝沢小学校		萩荘中学校
	南小学校		巖美中学校
	弥栄小学校		舞川中学校
	萩荘小学校		花泉中学校
	巖美小学校		大東中学校
	舞川小学校		千厩中学校
	大原小学校		東山中学校
	大東小学校		室根中学校
	興田小学校		川崎中学校
	猿沢小学校		藤沢中学校
	千厩小学校		
	東山小学校		
	川崎小学校		
	藤沢小学校		
	黄海小学校		
	新沼小学校		

2 学校施設の目指すべき姿

一関市教育に関する大綱の基本目標、教育振興基本計画の基本目標、関係法令及び文部科学省の『小中学校施設整備検討指針』等を基本とし、各校の特色や教育理念・教育環境に十分配慮しながら、次に掲げる視点に立ち、本市の学校施設づくりを進めます。

① 子ども達の主体的な活動を支援する施設

多様化する教育ニーズ、社会環境の中で、多様な学習形態、弾力的な集団による活動を可能とする施設とし、変化する教育内容や教育方法に対応できる構造とします。

② ゆとりと潤いのある施設

子ども達の生活の場として、健康に配慮し、校内の快適性を確保するため、良好な環境を確保できる施設とします。

③ 環境に配慮した施設

2050年カーボンニュートラルの実現に向けて、太陽光や木質バイオマスなどの自然エネルギーの有効活用や緑化、木質化を通して、環境への負荷を抑制し、周辺の自然環境と調和した施設とします。

④ 安全・安心で地域との連携に配慮した施設

学校施設は災害時に地域の避難所にもなることから、地域の人々の生命を守る機能を備え、子どもを含めた地域の人々が交流・連携しやすい施設とします。

一関市教育に関する大綱

基本目標 「学びを広げ、人と地域が共に育ち、一関の未来を創る」

一関市教育振興基本計画

基本目標 「学びの風土を礎に 心豊かにたくましく
郷土の誇りを未来につなぐ 一関の人づくり」

第2章 学校施設等の実態

1 学校施設等の運営状況・活用状況等の実態

(1) 人口の現状と将来の見通し

一関市の人口は、国勢調査によると、平成27年は121,583人であり、合併前の人口を踏まえると昭和30年の174,342人をピークに減少しています。

一方、世帯数は平成27年現在で43,046世帯であり、平成12年以降はほぼ横ばいの状態が続いていますが、世帯当たりの人員は平成2年の3.93人から平成27年の2.82人まで減少しています。

なお、令和2年10月に改定された「一関市人口ビジョン」では、将来の目標人口を令和22年で89,000人程度と推計しています。

(2) 財政状況

令和3年2月に作成した本市の財政見通しでは、歳入・歳出は緩やかに減少していくと予想しています。

歳入では、地方交付税の減少傾向が大きく、財源の確保が大きな課題といえます。また、歳出では、義務的経費（人件費、扶助費、公債費）が高い水準で推移することが予想され、施設や道路などの整備に充てられる普通建設事業費の確保が厳しくなると予想されます。

(3) 学校施設の現状・課題

平成17年9月の市町村合併当時（平成23年に合併した藤沢町を含む）において、小学校が51校、中学校が20校ありましたが、統廃合などにより令和3年3月時点で、小学校が28校、中学校が16校となっており、令和4年度以降の学校統合により小学校22校、中学校14校となる予定です。

少子化が進んでいることから、望ましい学校規模や学校配置について、今後も地域と協議を進める必要があります。地域から選出された有識者を含めた検討委員会等により協議していきます。

また、児童・生徒数の減少により余剰となる教室の活用と統廃合などで使われなくなった学校施設の活用についても引き続き検討が必要です。

① 本計画の対象施設一覧

対象施設は第1章(3)に記載のとおり、小学校20校(52棟)、中学校14校(45棟)、合計34校(97棟)とします。(対象の建物は、概ね200㎡以下の小規模な倉庫等を除きます。)

表：対象施設名ほか基本情報

■：建築後50年以上 □：建築後30年～49年

(令和3年3月時点)

施設名	通し番号	建物名	構造※	階数	延床面積(㎡)	建築年度		築年数
						西暦	和暦	
小学校								
1 一関小学校	1	校舎1	RC	3	4,974	1965	S40	55
	2	校舎2	RC	3	334	1979	S54	41
	3	体育館	S	1	964	1968	S43	52
2 山目小学校	4	校舎1	RC	3	6,762	2014	H26	6
	5	校舎2	W	1	188	2014	H26	6
	6	体育館	S	1	1,363	2008	H20	12
3 赤荻小学校	7	校舎	RC	3	2,792	1985	S60	35
	8	体育館	S	1	963	1987	S62	33
	9	校舎1	RC	3	2,479	1961	S36	59
4 中里小学校	10	校舎2	S	1	250	2012	H24	8
	11	体育館	S	1	895	2012	H24	8
	12	校舎	RC	2	2,715	1992	H4	28
5 滝沢小学校	13	体育館	S	1	978	1992	H4	28
	14	校舎	RC	3	6,418	1999	H11	21
	15	体育館	S	1	1,458	1999	H11	21
6 南小学校	16	校舎	RC	2	2,070	1989	H元	31
	17	体育館	S	1	916	1989	H元	31
	18	校舎1	RC	2	5,493	2004	H16	16
8 萩荘小学校	19	校舎2	W	1	353	2004	H16	16
	20	体育館	S	1	1,458	2004	H16	16
	21	校舎	RC	3	1,954	1979	S54	41
9 厳美小学校	22	体育館	S	1	696	1981	S56	39
	23	校舎	RC	2	2,676	1994	H6	26
	24	体育館	S	1	975	1994	H6	26
11 大原小学校	25	校舎	RC	2	3,481	2009	H21	11
	26	体育館	S	1	1,019	2009	H21	11
	27	プール上屋	S	1	750	2011	H23	9
12 大東小学校	28	校舎	RC	2	4,121	2012	H24	8
	29	体育館	S	1	1,076	2012	H24	8
	30	プール上屋	S	1	750	2013	H25	7
13 興田小学校	31	校舎	RC	2	3,224	2005	H17	15
	32	体育館	S	1	1,022	2005	H17	15
	33	プール上屋	W	1	838	2005	H17	15
14 猿沢小学校	34	校舎	RC	3	2,191	1985	S60	35
	35	体育館	S	1	720	1993	H5	27
	36	校舎	RC	2	5,760	2017	H29	3
15 千厩小学校	37	体育館	S	1	1,270	2017	H29	3
	38	校舎1	RC	2	3,854	1973	S48	47
	39	校舎2	RC	2	571	2019	H31	1
16 東山小学校	40	校舎3	RC	2	429	2019	H31	1
	41	体育館	S	1	975	1974	S49	46
	42	軽運動場	RC	1	211	2019	H31	1
17 川崎小学校	43	校舎	RC	3	2,512	1970	S45	50
	44	体育館	S	1	702	1972	S47	48
	45	校舎	RC	3	4,723	1968	S43	52
18 藤沢小学校	46	体育館	S	2	1,127	1970	S45	50
	47	武道館	S	1	226	1970	S45	50
	48	校舎	RC	3	2,660	1974	S49	46
19 黄海小学校	49	体育館	S	1	750	1990	H2	30
	50	校舎1	W	2	1,260	2001	H13	19
	51	校舎2	S	1	600	1986	S61	34
20 新沼小学校	52	体育館	S	1	650	1989	H元	31

施設名	通し番号	建物名	構造※	階数	延床面積(㎡)	建築年度		築年数
						西暦	和暦	
中学校								
1 一関中学校	53	校舎1	RC	2	3,675	1979	S54	41
	54	校舎2	RC	1	216	1992	H4	28
	55	体育館	S	1	1,432	1993	H5	27
	56	武道館	S	1	448	2010	H22	10
2 磐井中学校	57	校舎1	RC	4	4,700	2014	H26	6
	58	校舎2	RC	3	2,414	1980	S55	40
	59	体育館	S	2	1,665	1997	h9	23
	60	武道館	S	1	448	2010	H22	10
3 一関東中学校	61	校舎	RC	2	2,977	2007	H19	13
	62	体育館	S	1	1,222	2007	H19	13
	63	校舎1	RC	3	3,113	1981	S56	39
4 桜町中学校	64	校舎2	RC	3	1,207	2015	H27	5
	65	体育館	S	1	1,417	1993	H5	27
	66	校舎	RC	3	3,023	1970	S45	50
5 萩荘中学校	67	体育館	S	1	1,167	2010	H22	10
	68	校舎	RC	2	2,891	1996	H8	24
	69	体育館	S	1	1,372	1997	H9	23
7 舞川中学校	70	校舎	W	2	1,347	1952	S27	68
	71	体育館	S	1	858	1986	S61	34
	72	校舎	RC	4	6,037	2004	H16	16
8 花泉中学校	73	体育館	RC	2	1,819	2004	H16	16
	74	武道館	S	1	651	1986	S61	34
	75	校舎	RC	2	3,693	2001	H13	19
9 大東中学校	76	体育館	S	2	4,037	2002	H14	18
	77	プール上屋	W	1	741	2003	H15	17
	78	校舎	RC	3	5,669	1999	H11	21
10 千厩中学校	79	体育館	RC	1	1,555	1999	H11	21
	80	武道館	S	1	588	2002	H14	18
	81	校舎1	RC	2	2,180	1969	S44	51
11 東山中学校	82	校舎2	RC	3	1,405	2013	H25	7
	83	体育館	S	1	1,202	2008	H20	12
	84	武道館	S	1	417	1974	S49	46
12 室根中学校	85	校舎1	RC	3	3,581	1971	S46	49
	86	校舎2	W	1	246	1983	S58	37
	87	体育館	RC	1	1,125	1972	S47	48
	88	武道館	S	1	427	1982	S57	38
	89	部室	S	1	276	1998	H10	22
13 川崎中学校	90	校舎	W	2	3,020	2011	H23	9
	91	体育館	S	1	1,214	2011	H23	9
	92	武道館	S	1	400	1983	S58	37
14 藤沢中学校	93	校舎1	RC	3	3,259	1975	S50	45
	94	校舎2	RC	2	482	1984	S59	36
	95	体育館	S	2	1,155	1970	S45	50
	96	武道館	S	1	357	1980	S55	40
	97	部室	S	2	227	1990	H2	30

※ W: 木造
S: 鉄骨造
RC: 鉄筋コンクリート造

② 児童生徒数及び学級数の変化（直近5年間）

ア 児童数及び学級数の推移（小学校）

平成28(2016)年度～令和2(2020)年度の直近5年間における対象施設小学校の学級数及び児童数を下表に示します。

対象校の児童数は約4,900人から4,400人に減少しており、全体的に減少傾向が見られます。学級数は250学級台から220学級台で減少しており、こちらも全体で減少傾向となっています。なお、小学校においては特別支援学級の学級数、児童数は増加傾向となっています。

表：直近5年間における対象施設小学校の学級数及び児童数の推移

学校名	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
一関小学校	22 (2)	21 (3)	22 (4)	21 (3)	23 (5)
	637 (11)	635 (15)	634 (18)	611 (17)	602 (19)
山目小学校	22 (6)	23 (6)	23 (6)	24 (7)	23 (7)
	510 (26)	527 (30)	529 (34)	505 (40)	483 (34)
赤荻小学校	14 (2)	14 (2)	14 (2)	14 (2)	14 (2)
	321 (7)	312 (6)	309 (7)	299 (9)	290 (11)
中里小学校	9 (1)	10 (2)	10 (2)	9 (2)	9 (2)
	193 (4)	199 (4)	202 (7)	190 (9)	197 (8)
滝沢小学校	8 (2)	8 (2)	8 (2)	8 (2)	8 (2)
	158 (9)	167 (7)	150 (4)	157 (6)	150 (4)
南小学校	19 (3)	19 (3)	18 (3)	17 (3)	17 (4)
	467 (17)	464 (18)	437 (22)	424 (22)	403 (23)
弥栄小学校	5 (1)	5 -	5 -	5 -	5 -
	45 (1)	47 -	41 -	45 -	46 -
萩荘小学校	14 (2)	15 (3)	15 (3)	15 (3)	15 (3)
	383 (8)	381 (14)	375 (16)	371 (14)	371 (15)
巖美小学校	12 (3)	12 (4)	8 (2)	8 (2)	8 (2)
	159 (3)	145 (5)	131 (4)	125 (5)	125 (5)
舞川小学校	8 (2)	8 (2)	8 (2)	8 (2)	8 (2)
	94 (3)	94 (3)	99 (4)	94 (4)	96 (4)
大原小学校	8 (2)	8 (2)	8 (2)	8 (2)	8 (2)
	146 (3)	138 (3)	131 (4)	117 (4)	100 (4)
大東小学校	14 (2)	13 (2)	15 (4)	14 (4)	13 (4)
	262 (5)	262 (7)	257 (13)	251 (15)	246 (19)
興田小学校	9 (3)	9 (3)	9 (3)	9 (3)	6 (1)
	125 (4)	114 (6)	100 (6)	85 (5)	74 (4)
猿沢小学校	7 (1)	7 (1)	8 (2)	8 (2)	8 (2)
	76 (1)	74 (1)	63 (2)	61 (2)	57 (2)
千厩小学校	35 (6)	37 (7)	19 (2)	18 (3)	16 (3)
	529 (15)	511 (13)	480 (13)	441 (17)	413 (14)
東山小学校	15 (3)	14 (3)	14 (3)	15 (3)	14 (3)
	280 (17)	265 (15)	264 (16)	263 (16)	252 (11)
川崎小学校	8 (2)	8 (2)	8 (2)	8 (2)	8 (2)
	138 (6)	119 (6)	118 (6)	122 (9)	127 (6)
藤沢小学校	10 (3)	10 (4)	10 (4)	10 (4)	10 (4)
	212 (13)	197 (12)	193 (9)	189 (10)	184 (11)
黄海小学校	8 (2)	8 (2)	8 (2)	8 (2)	8 (2)
	91 (2)	87 (4)	91 (4)	89 (5)	90 (4)
新沼小学校	5 (1)	4 (1)	5 (1)	5 (1)	5 (1)
	39 (2)	29 (2)	26 (1)	35 (3)	36 (2)
計	252 (49)	253 (54)	235 (51)	232 (52)	226 (53)
	4,865 (157)	4,767 (171)	4,630 (190)	4,474 (212)	4,342 (200)

※ 上段は学級数、下段は児童数。()は特別支援学級数・児童数で内数
 巖美小学校及び千厩小学校の数字には、統合前の小学校の学級数等を含みます。

イ 生徒数及び学級数の推移（中学校）

平成28(2016)年度～令和2(2020)年度の直近5年間における対象施設中学校の学級数及び生徒数を下表に示します。

対象校の生徒数は、約3,100人から約2,800人で減少しており、全体的に微減の傾向が見られます。学級数は130学級台から120学級台で推移しており、全体で大きな増減は見られない状況です。

表：直近5年間における対象施設中学校の学級数及び生徒数の推移

学校名	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
一関中学校	11 (2)	11 (2)	11 (2)	11 (2)	10 (2)
	259 (3)	246 (5)	243 (7)	231 (6)	221 (6)
磐井中学校	19 (3)	20 (4)	17 (2)	18 (2)	17 (2)
	542 (13)	536 (15)	489 (14)	489 (9)	479 (9)
一関東中学校	4 (1)	5 (2)	5 (2)	5 (2)	5 (2)
	92 (5)	90 (4)	93 (5)	86 (4)	92 (4)
桜町中学校	11 (2)	11 (2)	11 (2)	11 (2)	11 (2)
	275 (5)	278 (2)	298 (5)	306 (7)	314 (8)
萩荘中学校	9 (2)	8 (2)	8 (2)	8 (2)	8 (2)
	192 (7)	195 (4)	191 (7)	178 (8)	181 (8)
巖美中学校	7 (1)	7 (1)	4 -	3 -	3 -
	101 (1)	99 (1)	97 -	79 -	76 -
舞川中学校	6 (3)	6 (3)	4 (1)	4 (1)	4 (1)
	44 (5)	48 (5)	44 (1)	45 (1)	40 (1)
花泉中学校	14 (3)	14 (3)	14 (4)	13 (4)	12 (3)
	338 (7)	325 (13)	314 (13)	309 (14)	312 (13)
大東中学校	17 (5)	17 (5)	16 (4)	16 (4)	17 (5)
	286 (9)	294 (8)	315 (6)	297 (4)	300 (6)
千厩中学校	11 (2)	12 (3)	11 (2)	11 (2)	11 (2)
	308 (5)	302 (11)	289 (11)	284 (9)	283 (11)
東山中学校	8 (2)	8 (2)	8 (2)	7 (2)	7 (2)
	190 (5)	171 (10)	159 (9)	127 (7)	121 (8)
室根中学校	6 (2)	6 (2)	6 (2)	5 (2)	5 (2)
	114 (5)	107 (3)	103 (3)	98 (3)	92 (6)
川崎中学校	5 (1)	6 (2)	5 (2)	5 (2)	3 -
	118 (2)	99 (5)	87 (4)	80 (2)	57 -
藤沢中学校	8 (2)	8 (2)	9 (3)	9 (3)	9 (3)
	189 (58)	196 (7)	176 (10)	168 (10)	155 (11)
計	136 (31)	139 (35)	129 (30)	126 (30)	122 (28)
	3,048 (130)	2,986 (93)	2,898 (95)	2,777 (84)	2,723 (91)

※ 上段は学級数、下段は児童数。()は特別支援学級数・児童数で内数
巖美中学校の数字には、統合前の中学校の学級数等を含みます。

③ 児童生徒数及び学級数の推計（今後6年間）

ア 児童数及び学級数の推移（小学校）

令和3（2021）年度～令和8（2026）年度の今後6年間における対象施設小学校の学級数及び児童数の推計を下表に示します。推計の基本となるデータは、令和2（2020）年5月1日現在の児童数です。

対象校の児童数は約4,200人から3,300人に減少が見込まれており、学校単位で見ると横ばいか微減の学校がある一方で、全体的に見ると減少の幅が大きくなると予想されます。学級数は210学級台から150学級台に減少していくと予想されます。

表：今後6年間における対象施設小学校の学級数及び児童数の推計

学校名	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
一関小学校	22 (3)	22 (3)	23 (3)	22 (2)	22 (2)	20 -
	614 (22)	612 (22)	621 (22)	612 (22)	603 (22)	589 -
山目小学校	22 (6)	20 (5)	19 (4)	18 (4)	14 (1)	13 -
	468 (22)	439 (20)	429 (19)	405 (18)	390 (14)	376 -
赤荻小学校	14 (2)	14 (2)	14 (2)	13 (2)	12 (1)	10 -
	287 (14)	284 (14)	271 (14)	250 (13)	254 (12)	246 -
中里小学校	8 (2)	8 (2)	8 (2)	8 (2)	6 -	6 -
	177 (8)	170 (8)	160 (8)	154 (8)	143 -	135 -
滝沢小学校	8 (2)	7 (1)	7 (1)	7 (1)	6 -	6 -
	154 (8)	147 (7)	143 (7)	147 (7)	131 -	126 -
南小学校	16 (3)	15 (2)	14 (2)	14 (2)	13 (1)	12 -
	384 (19)	368 (12)	336 (9)	315 (4)	295 (2)	289 -
弥栄小学校	4 -	4 -	4 -	4 -	3 -	3 -
	43 -	41 -	34 -	37 -	33 -	26 -
萩荘小学校	15 (3)	13 (2)	13 (2)	13 (2)	11 (1)	10 -
	350 (14)	324 (11)	308 (9)	291 (5)	268 (1)	244 -
厳美小学校	8 (2)	8 (2)	7 (1)	7 (1)	6 -	6 -
	111 (4)	100 (2)	98 (1)	94 (1)	85 -	77 -
舞川小学校	8 (2)	8 (2)	8 (2)	8 (2)	7 (1)	6 -
	94 (4)	94 (4)	84 (2)	76 (2)	77 (1)	73 -
大原小学校	8 (2)	8 (2)	8 (2)	7 (1)	7 (1)	6 -
	100 (4)	97 (3)	100 (3)	88 (1)	83 (1)	81 -
大東小学校	11 (2)	10 (3)	7 (1)	7 (1)	7 (1)	6 -
	218 (13)	212 (13)	191 (8)	174 (5)	161 (2)	140 -
興田小学校	6 (1)	6 (1)	5 -	6 -	5 -	5 -
	61 (3)	59 (3)	52 -	54 -	58 -	50 -
猿沢小学校	7 (1)	7 -	6 -	6 -	5 -	5 -
	56 (1)	57 (1)	56 -	52 -	54 -	53 -
千厩小学校	15 (2)	15 (2)	14 (2)	14 (2)	12 -	12 -
	408 (15)	394 (15)	(358) (14)	341 (14)	323 (12)	310 -
東山小学校	12 (2)	10 (1)	10 (1)	8 -	7 -	7 -
	233 (6)	220 (4)	219 (4)	209 -	194 -	176 -
川崎小学校	8 (2)	8 (2)	8 (2)	7 (1)	7 (1)	6 -
	117 (4)	124 (4)	129 (4)	130 (1)	128 (1)	121 -
藤沢小学校	9 (3)	8 (2)	7 (1)	7 (1)	7 (1)	6 -
	166 (9)	157 (6)	156 (4)	137 (3)	125 (1)	118 -
黄海小学校	8 (2)	7 (1)	7 (1)	6 -	6 -	6 -
	88 (4)	88 (2)	80 (1)	72 -	70 -	62 -
新沼小学校	5 (1)	5 (1)	5 (1)	5 (1)	4 -	4 -
	35 (2)	37 (2)	39 (2)	42 (2)	34 -	34 -
計	214 (43)	203 (36)	194 (30)	187 (25)	167 (11)	155 -
	4,164 (176)	4,024 (153)	3,148 (131)	3,680 (106)	3,509 (69)	3,326 -

※ 上段は学級数、下段は児童数。()は特別支援学級数・児童数で内数

イ 児童数及び学級数の推移（中学校）

令和3（2021）年度～令和8（2026）年度の今後6年間における対象施設中学校の学級数及び生徒数の推計を下表に示します。推計の基本となるデータは、令和2（2020）年5月1日現在の生徒数です。

対象校の生徒数は約2,800人から2,400人で減少しており、学校単位で見ると横ばいか微減の学校がある一方で、全体的に見ると減少の幅が大きくなると予想されます。学級数は110学級台から120学級台に減少していくと予想されます。

表：今後6年間における対象施設中学校の学級数及び生徒数の推計

学校名	令和3年度 2021年度	令和4年度 2022年度	令和5年度 2023年度	令和6年度 2024年度	令和7年度 2025年度	令和8年度 2026年度
一関中学校	9 (2)	9 (3)	10 (3)	10 (3)	9 (2)	8 (2)
	220 (8)	213 (14)	220 (14)	205 (15)	202 (10)	183 (9)
磐井中学校	17 (2)	18 (4)	19 (4)	20 (5)	22 (7)	20 (6)
	505 (17)	495 (18)	512 (19)	493 (30)	479 (31)	458 (25)
一関東中学校	5 (2)	6 (2)	6 (1)	7 (2)	6 (1)	5 (1)
	89 (3)	108 (4)	112 (2)	99 (2)	82 (2)	84 (2)
桜町中学校	11 (2)	11 (2)	11 (2)	12 (3)	12 (3)	12 (3)
	303 (8)	303 (6)	303 (10)	313 (12)	307 (12)	299 (9)
萩荘中学校	8 (2)	7 (1)	7 (1)	8 (2)	8 (2)	8 (2)
	185 (7)	187 (5)	193 (6)	186 (9)	183 (10)	178 (9)
巖美中学校	4 (1)	5 (2)	5 (2)	5 (2)	5 (2)	4 (1)
	72 (1)	77 (3)	71 (4)	58 (3)	48 (2)	54 (1)
舞川中学校	3 -	3 -	5 (2)	5 (2)	5 (2)	5 (2)
	45 -	41 -	51 (2)	52 (2)	54 (3)	45 (2)
花泉中学校	11 (2)	12 (3)	13 (4)	13 (4)	13 (4)	13 (4)
	312 (14)	317 (15)	323 (18)	313 (17)	284 (16)	258 (10)
大東中学校	13 (4)	12 (3)	11 (3)	11 (3)	10 (3)	10 (3)
	300 (12)	290 (11)	268 (18)	234 (15)	212 (17)	209 (11)
千厩中学校	10 (2)	9 (2)	8 (1)	9 (2)	9 (2)	8 (2)
	259 (8)	231 (8)	218 (6)	221 (7)	216 (11)	195 (2)
東山中学校	8 (3)	9 (3)	8 (2)	8 (2)	7 (1)	6 (1)
	129 (11)	141 (13)	135 (7)	125 (6)	121 (4)	117 (4)
室根中学校	5 (2)	5 (2)	4 (1)	5 (2)	5 (2)	4 (1)
	97 (4)	97 (2)	87 (1)	76 (2)	70 (4)	75 (3)
川崎中学校	5 (2)	5 (2)	5 (2)	5 (2)	5 (2)	5 (2)
	59 (2)	57 (2)	62 (2)	60 (3)	62 (3)	65 (4)
藤沢中学校	9 (3)	9 (3)	9 (3)	9 (3)	8 (2)	7 (1)
	159 (7)	161 (10)	156 (10)	152 (10)	153 (9)	154 (7)
計	118 (29)	120 (32)	121 (31)	127 (37)	124 (35)	115 (31)
	2,734 (102)	2,718 (111)	2,711 (119)	2,587 (133)	2,473 (134)	2,374 (98)

※ 上段は学級数、下段は児童数。()は特別支援学級数・児童数で内数
大東中学校の数字には、大東地域の中学校の数字を含みます。

④ 施設関連経費の推移

平成27(2015)年度から令和元(2019)年度の5年間における学校施設の施設関連経費は約9億円から約28億円で推移しており、5年間の平均は約16.6億円/年となっています。

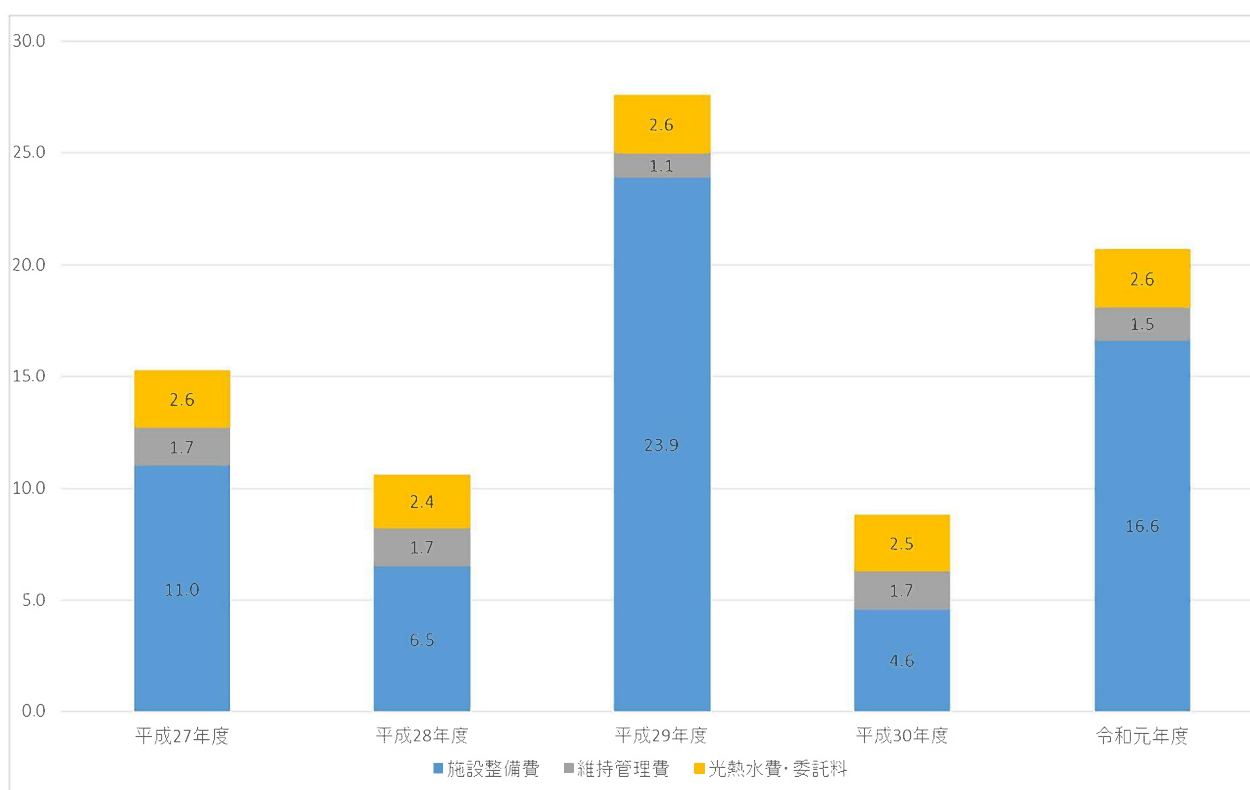
経費の内訳では、施設整備費が最も高く、5年間の平均は12.5億円/年となっており、次に高いのは、光熱水費・委託料で、5年間の平均は2.5億円/年となっています。

表：過去5年間における学校施設の施設関連経費

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	5年間平均
	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	
施設整備費	11.0	6.5	23.9	4.6	16.6	12.5
維持管理費	1.7	1.7	1.1	1.7	1.5	1.5
光熱水費・委託料	2.6	2.4	2.6	2.5	2.6	2.5
合計	15.3	10.6	27.6	8.8	20.7	16.6

(単位:億円)

図：過去5年間の施設関連経費

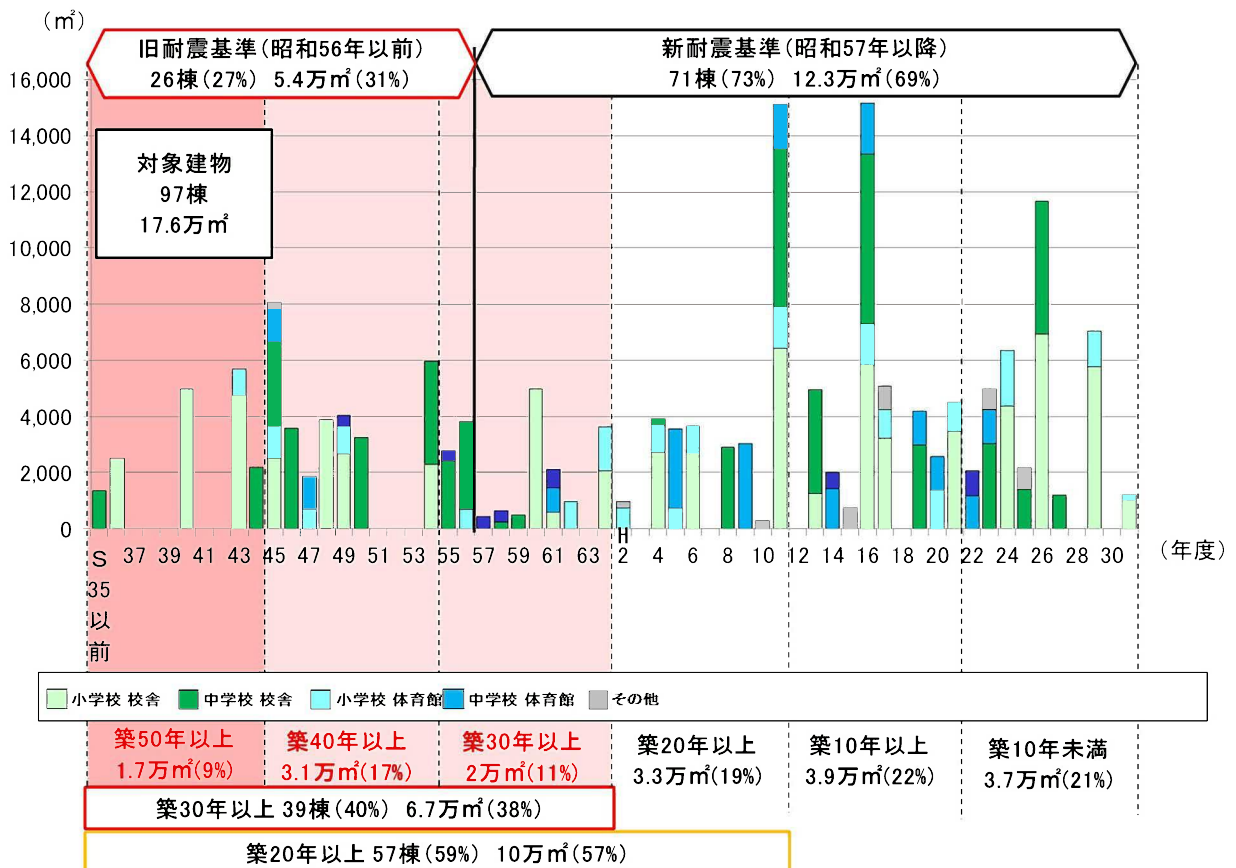


⑤ 学校施設の築年別整備状況

一関市における学校施設（対象施設 97 棟、17.6 万㎡）のうち、令和 2（2020）年度現在、建築後 30 年以上が 39 棟（40%）、6.7 万㎡（38%）となっています。

また、耐震基準では、旧耐震基準（昭和 56 年以前）の建物が 26 棟（27%）、5.4 万㎡（31%）でしたが、耐震改修が必要な建物については全て耐震改修を実施しました。

図：築年別整備状況



2 学校施設の劣化状況の調査

(1) 劣化状況調査

一関市では、躯体以外の劣化状況を把握し、長寿命化に必要なコストについて試算するため、構造躯体の健全性を除く、劣化状況等について、棟ごとに点検調査を実施しました。

屋根・屋上、外壁は目視状況により、電気設備・機械設備は部位の全面的な改修年からの経過年数を基本にA、B、C、Dの4段階で評価しました。

また、内部仕上げの劣化度については、目視と建築経過年数から総合的に評価を行いました。

調査の結果、AとBの合計が全体の75.5%、Cが19.4%、Dが5.1%となりました。B及びCの合計が56.7%であり、施設の老朽化対策が必要な状況が見受けられます。

【評価基準】

○目視による評価（屋根・屋上、外壁、内部仕上げ）

評価	基準	評価点
A	概ね良好	100点
B	部分的に劣化(安全上、機能上、問題なし)	75点
C	広範囲に劣化(安全上、機能上、不具合発生の兆し)	40点
D	早急に対応する必要がある (安全上、機能上、問題あり)、(躯体の耐久性に影響を与えている)、(設備が故障し施設運営に支障を与えている)等	10点

良好
↓
劣化

○経過年数による評価（内部仕上げ、電気設備、機械設備）

評価	基準	評価点
A	20年未満	100点
B	20年以上40年未満	75点
C	40年以上	40点
D	経過年数に関わらず、著しい劣化事象がある場合	10点

良好
↓
劣化

【健全度の算定】

健全度とは、各建物の5つの部位の劣化状況を4段階で評価し、100点満点で数値化した評価指標です。「①部位の評価点」と「②部位のコスト配分」を下表のように定め、③健全度を100点満点で算定します。

なお、②部位コスト配分は、文部科学省の「学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書」を参考にして設定しています。

①部位の評価点

	評価点
A	100
B	75
C	40
D	10

②部位コスト配分

1	屋上・屋根	5.1
2	外壁	17.2
3	内部仕上げ	22.4
4	電気設備	8.0
5	機械設備	7.3
	計	60

③健全度

$$\text{総和(部位の評価点} \times \text{部位コスト配分)} \div 60$$

※100点満点にするために、コスト配分の合計値で割っている。

※健全度は、数値が小さいほど劣化が進んでいることを示す。

(「劣化状況調査票」記入例における健全度計算例)

	評価	⇒	評価点	×	配分	=	
1	屋上・屋根	C	⇒	40	×	5.1	= 204
2	外壁	D	⇒	10	×	17.2	= 172
3	内部仕上げ	B	⇒	75	×	22.4	= 1,680
4	電気設備	A	⇒	100	×	8.0	= 800
5	機械設備	C	⇒	40	×	7.3	= 292
						計	3,148
						÷	60
						健全度	52

文部科学省 「学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書」より